

アーバンデータチャレンジ2022

和歌山ローカルナレッジ

《様々な活動主体による地域情報化》

地域を知り、共有すれば、心が動く。

UDC和歌山実行委員会

上仲 輝幸

株式会社 紀伊民報 マルチメディア事業部

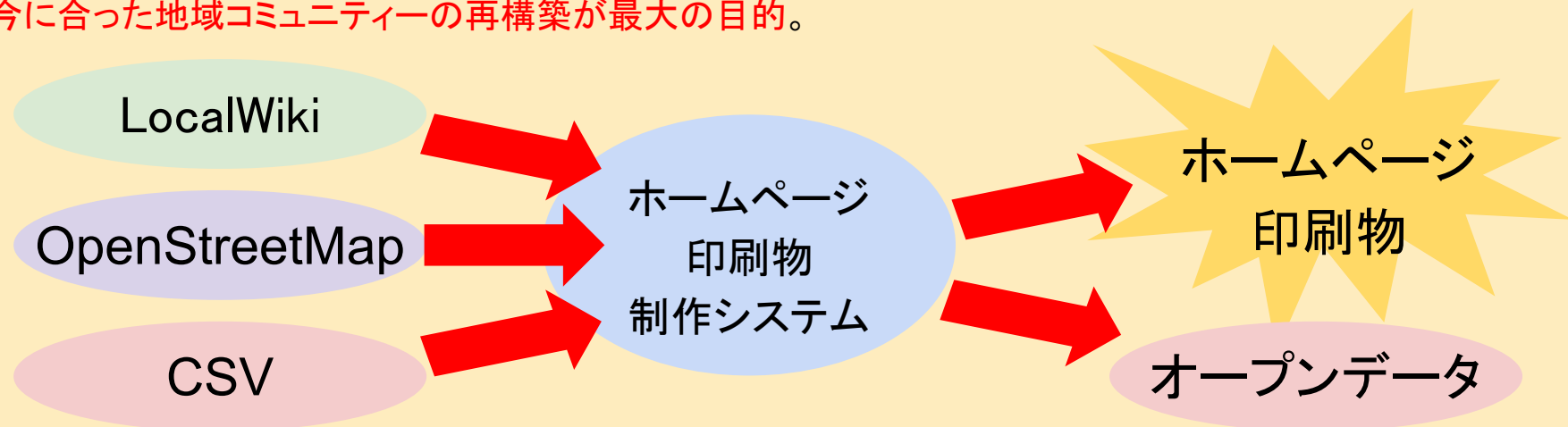
〒646-8660 和歌山県田辺市秋津町100

TEL.0739-26-7171 FAX.0739-81-7181

e-mail:t-kmnk@agara.co.jp

和歌山ローカルナレッジとは

- オープンデータやデータベースを活用した地域学習とデータ作成、和歌山大学がきっかけで広がったLocalWikiやOSMを活用した、マッピングパーティーなどシビックテックの活動。
- 自治体や学校、さまざまな組織や企業、住民などが連携して、地域の歴史や文化、地理、産業、観光資源などを集約し、共有財産とする。
- 紀伊民報のシステム「eメイド」を通してオープンデータの公開、WEBサイトや印刷物で見える化。ソーシャルメディアなどを活用し、情報流通の促進をする。
- さまざまな立場や多世代との交流活動を通じて、情報を共有し、地域課題の解決に取り組み、昔を知り、今に合った地域コミュニティの再構築が最大の目的。



ホームページ更新システム「eメイド」

- eメイドは、ホームページや印刷物を制作する紀伊民報のシステム。
- さまざまAPIのサービスや、CSVからもインプットとアウトプットが可能。

和歌山ローカルナレッジでは、下記を活用して、情報流通の促進を図る

- LocalWikiからAPIで情報を取得し、WEBサイトや印刷物を生成する仕組み
- CSVデータから、WEBサイトを生成する仕組み
- WEBページの生成や、入力した情報をCSVで出力できる情報共有システム

「Kiiminpo OpenData Project」の活用。

CC BYライセンス
(二次利用、再配布が自由)



WEBサイト



印刷物(PDF)

「和歌山ローカルナレッジ」の目的

地域課題の解決という共通の目的があっても、それぞれの状況や立場によって、

目的は異なる。



みんなで取り組みオープンデータにすることで、それぞれの目的を達成

「田辺祭を世界に発信！2022」

～OSMとLocalWikiを活用した、地域資源の発掘と情報発信によるリーダー育成事業～

【活動内容】

450年余りの歴史をもつ田辺祭に、和歌山大学生と地元の高校が参加。住民らの手伝いをしながら祭りの歴史や行事などを調べ、LocalWikiとOSMにまとめる。

2022年からコロナの影響で2年間中止。今年は規模を縮小して開催された祭の記録。

紀伊民報が開発したLocalWikiやOSMにあるデータを、APIを使ってWebサイトや印刷物に出力するシステムを使ってUDC提出作品とする。



【目的】

活動を通して、持続可能な社会を担うリーダーの育成を行うとともに、その成果を通じて地元愛の醸成を行うことが主たる目的。

～OSMとLoacalWikiを活用した、地域資源の発掘と情報発信によるリーダー育成事業～

田辺祭

WAKAYAMA UNIV.

http://wutm.civic.style

田辺市大学連携地域づくり事業2022

田辺祭は通常7月24日(青宮)・25日(本宮)に行なわれます。また青宮前日までに各町で御座の準備、出陣などさまざまな行事が行われます。しかし2020年からつづくコロナ禍により、2年間の中止を挟み、2022年度は規模を縮小して開催されました。23日の福路町出陣より、江川町と本町の試し度き、そして24日に繰り上げて行われた宮入り、さらに25日早朝に行なわれた晩の祭典のようすを調査することができました。田辺祭2022では、コロナ禍に行なわれた田辺祭の記録として紹介できればと考えております。

① 出陣式 (福路町)

7月23(土)は、朝霧川系田辺市福路町の町内会館にて16時ごろから出陣式が行われた。各町の御座(おんざ)に入りりする人達のお入りが、最後は町の御座から御座を渡り人おいた。

② 晩の祭典

晩の祭典2022・日時:7月25日(本宮)午後4時30分・場所:福路町1575番地午前4時から「晩の祭典」が行われ、見物人おいた。

③ 田辺祭宮入

2022年7月24日 田辺祭 宮入午前10時30分より各町の家人が行なわれた。今年度は福路町御座のため、往々お入りの人おいた。福路町、江川(宮入、お入)のみであった。

④ 江川町 御座

江川町 御座2022年7月25日(本宮)江川町の御座では中央に由、もつて宮に(本宮、もつて)宮に(本宮)が参る。

Location | © OpenStreetMap contributors

「田辺祭を世界に発信！2022」

～OSMとLocalWikiを活用した、地域資源の発掘と情報発信によるリーダー育成事業～

【主催・共催・後援】

主催：和歌山大学紀州経済史文化史研究所

協力：鈴木隆平氏（江川）

松本氏ほか南新町の皆さま

【参加者数】

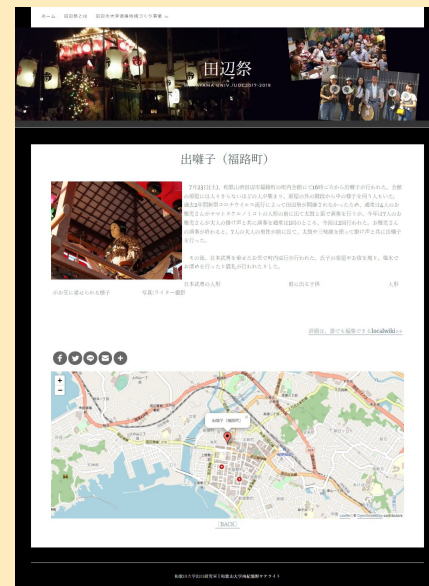
学生：総数7名（うち調査は紀州研ボランティア5名）

教員：4名

職員：3名

【ホームページ】

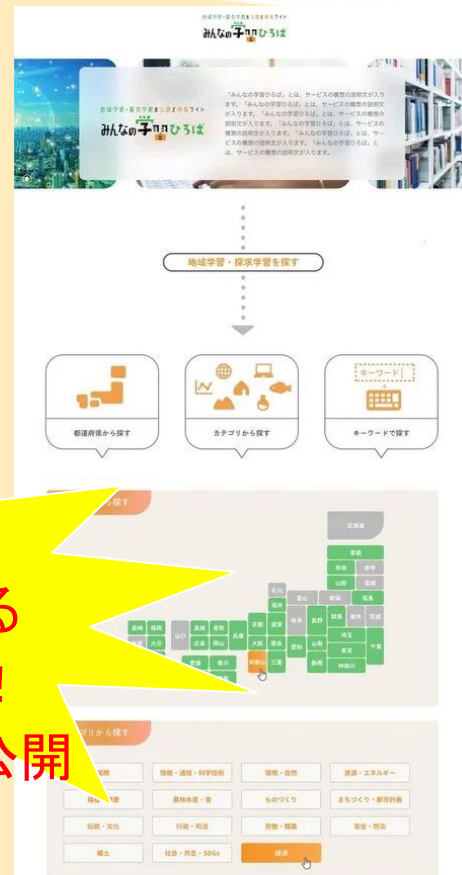
<https://wutm.civic.style/>



学習成果を発表する場「みんなの学習ひろば」

基幹となるデータベースは、生徒がパワーポイントのスライドやワードの文書、ポスター(画像)などにまとめた資料を格納。入力はエクセルやスプレッドシートで行い、学校や学年、クラス単位で大量の情報を一括で管理することができる。情報の修正や削除も、シート上で行い、アップロードするだけなので簡単。入力に当たって都道府県名、年度、学校名、カテゴリなどを付記することで検索を容易する。全国の小中高校で登録が可能。登録された情報はオープンデータで公開するので、誰でもご自由に、ウェブページに埋め込み可能。

**学習の成果は
紀伊民報が管理する
ウェブサイトに登録！
オープンデータとして公開**



和歌山ローカルナレッジが考えるシビックテック

- 人と情報をつなぐ
- 情報と情報をつなぐ
- 人と人をつなぐ

情報を共有すれば、心が動く

和歌山ローカルナレッジが考えるシビックテックは、
技術の前に「**つなぐ**」がスタートライン。